

第6回水稻病虫害発生予察結果（伊豆市内）

4月下旬～5月上旬田植えの早生品種（コシヒカリ等）

【生育状況と栽培管理】

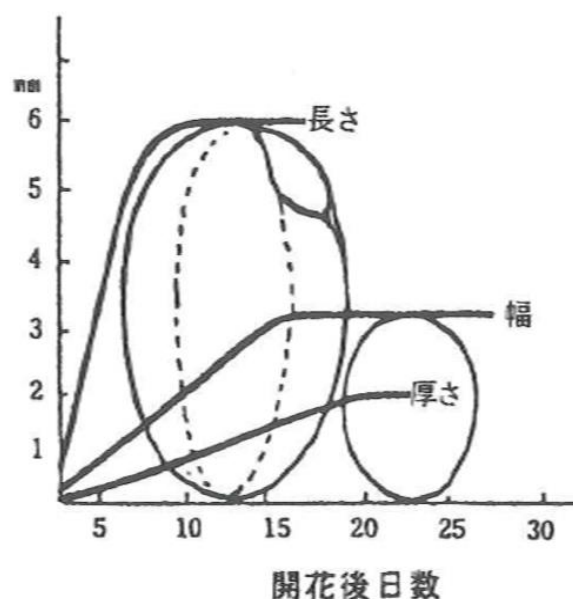
4月下旬から5月上旬に田植えを行った田んぼ全体では、田んぼの80%～90%ぐらい穂が出ている穂ぞろい期から籾をつぶすと白い液の出る乳熟期となっております。玄米の生育には水が必要となりますので、間断灌水の水管理を行うようにしてください。

《玄米の成長に要する開花後日数》

- ①米粒の長さは5～6日頃
- ②米粒の幅は15～16日頃
- ③米粒の厚さは20～25日頃 に決まる



① ② ③ に該当する開花後25日間は玄米の成長を促すために田んぼに水が必要となります。



【病虫害の発生状況】

県下全域ではカメムシの発生が多く確認されております。粉剤の農薬で防除を行った方は吸汁される期間に対して防除期間が十分ではないため、1回目の散布から一週間後を目安に2回目の粉剤防除を行って下さい。詳しい防除タイミングや防除方法については第5回水稻病虫害発生予察結果をご覧ください。

斑点米を発生させる主なカメムシ



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



イネカメムシ

5月下旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおり SBL 等)

【生育状況と栽培管理】

中生品種のきぬむすめでは幼穂は平均 0.5cm 程度確認できました。出穂まで約3週間を切ったと予測されます。元肥一発肥料を使用していない方は、穂肥の施用が必要となります。

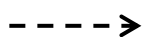
穂肥は1回目と2回目に分けて行いますが、1回目の穂肥を施用した1週間後に葉が濃い緑色をしている場合は、2回目の穂肥を施用する必要はありません。穂肥の施用のタイミングと、施用量は下表をご確認ください。

穂肥の施用のタイミング

幼穂の長さ	出穂前日数
0.1cm	25日
0.5cm	20日
1.5cm	18日
5.0cm	12日



1回目の穂肥の適期



2回目の穂肥の適期

穂肥の施用量

種類	肥料名	施肥量(10a)	施用時期
穂肥1回目	全農化成	10kg	出穂18日前に施用
穂肥2回目	全農化成	10kg	出穂10日前に施用

【病害虫の発生状況】

管内全域でカメムシが多く確認されております。中晩生品種の出穂の頃には、さらに増殖すると予測されるため、出穂のタイミングを確認しカメムシ防除をお願いいたします。防除タイミングは第5回水稻病害虫発生予察結果をご覧ください。



前回の予察結果・栽培管理は
こちらからご覧になれます！
次回予察予定 7月29日(火)



作成日：令和7年7月24日

J Aふじ伊豆修善寺営農経済センター

担当：竹村

電話：0558-72-4461